

施策評価調書(28年度実績)

施策コード Ⅱ-1-(2)

政策体系	施策名	マーケットインの商品(もの)づくりの加速	所管部局名	農林水産部	長期総合計画頁	89
	政策名	変化に対応し挑戦と努力が報われる農林水産業の実現	関係部局名	農林水産部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②
取組項目	マーケットに対応した販売力の強化	産地間競争に勝ち抜く生産力の強化

【Ⅱ. 目標指標】

指 標		関連する 取組No.	基準値		28年度			31年度	36年度	目標達成度(%)				
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125
i	農業	①②	H25	442	469 (H27)	478 (H27)	101.9%	505 (H30)	545 (H35)					
	林業		H25	169	175 (H27)	184 (H27)	105.1%	180 (H30)	205 (H35)					
	水産業		H25	210	217 (H27)	241 (H27)	111.1%	230 (H30)	260 (H35)					
	合計		—	H25	821	861 (H27)	903 (H27)	104.9%	915 (H30)	1,010 (H35)				

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
i 達成	<p>農業のうち園芸品目は、台風の影響により、なしの産出額が減少したものの、トマトやにら、ぶどうなどにおいて価格が上昇したことや新規就農による産地拡大により、前年と比べて15億円(5.6%)の増加となった。また、畜産は、子牛価格や乳価の上昇により11億円(6.0%)増加した。この結果、農業全体では26億円(5.8%)の増加となり目標を達成した。</p> <p>林業のうち木材は、森林資源の充実により素材生産量が増加したものの、前年4月の消費税率引上げ後の需要減で価格が下落し、前年に比べ7億円(5.6%)減少した。一方、乾しいたけは価格の高騰により10億円(22.7%)増加した。この結果、林業全体では3億円(1.7%)の増加となり目標を達成した。</p> <p>水産業のうち海面養殖業は、H26年に行われたクロマグロの前倒し出荷の影響により、前年に比べ21億円(8.5%)減少した。一方、海面漁業は関さばの漁獲量が減少したものの、タチウオの価格上昇により1億円(7.7%)増加した。この結果、全体では前年より20億円(7.7%)減少したものの、目標を達成した。(農林水産業産出額の国の公表が例年約1年遅れ(H28年分の公表はH29年度末)となることから、目標・実績についてはH27年の数値を記載。)</p>	達成

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震からの復興に向けた取り組みとして、大手量販店で大分フェアを開催し、加工品の常設販売に繋がった。また、「The・おおいた」ブランドHP内に「おおいた食材検索システム」を開設したところ、月平均で平均845件のアクセスがあった。 ・製材品の海外輸出は、バイヤー商談会等からの新規取引や既存取引の拡充から、昨年の2,762㎡に対し5,466㎡と大幅増となった。また、東京で行われた木材フェアには5社が出席し12社との取引に繋がった。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度から積極的な肉用牛の増頭対策を行った結果、近年下げ続けていた県内の繁殖牛の飼養頭数は下げ止まる見込み。また、関西方面を中心に「おおいた豊後牛」の販売促進を行ったことにより、大分県畜産公社の県外向け販売量は前年の2.7倍となった。 ・JAおおいたで「甘太くん」部会が設立(135人、117ha)されるとともに、県内の養豚農家で作る大分米ポークブランド普及促進協議会では、オレイン酸に注目した県統一ブランド豚「米の恵み」の販売を開始するなど、安定出荷とブランド力強化の動きが進展した。

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(28年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	29年度の方向性	
①	The・おおいたブランド流通販売戦略推進事業	90,845	A	継続・見直し	152
②	攻めの水田農業構造改革事業	222,199	A	終了	153
	水田戦略作物生産力向上対策事業	5,081	A	終了	154
	活力あふれる園芸産地整備事業	1,564,825	A	継続・見直し	155
	肉用牛生産基盤拡大緊急支援事業	743,090	A	終了	156
	おおいた型次世代木造住宅創造事業	76,340	A	継続・見直し	157
	林業専用道整備促進事業	359,498	A	継続・見直し	158
	しいたけ増産体制整備総合対策事業	121,061	A	継続・見直し	159
	県産水産物流通拡大推進事業	25,755	A	継続・見直し	160
	おおいた豊後牛流通促進対策事業	38,507	A	継続・見直し	161
	県産豚競争力強化対策事業	40,260	A	終了	162

【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

<p>○第5回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(H29.2)</p> <p>・農産物の輸送は九州内と比較して、関西へは2倍、関東へは3倍のコストがかかるために、大分県からの出荷は関西止まりが多い。オリンピックを控え、関東へ県産品を売り込むよい機会でもあるため、輸送の課題を検討して欲しい。</p>	<p>○第5回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(H29.2)</p> <p>・森林は公益的機能の発揮と木材生産のバランスが重要。全部切ってしまうと簡単だし、お金になるという現状、モラルハザードが九州全体で起きている。大分県は他県と横並びとならずに、健全な森林を守って頂きたい。</p>
--	--

【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・外食チェーン店と連携したサポーターショップの展開による「おおいた豊後牛」の認知度向上や統一ブランド豚「米の恵み」のフェア開催など、販路開拓に向けたPR活動を強化する。 ・おおいた冠地どりや原木生しいたけ、養殖ヒラマサなど高品質で特色ある県産食材の関西への販売を促進する。また、園芸品目や木材などの流通コスト削減と関東出荷の拡大に向けて、船舶の活用について検討を行う。 ・「おおいた県産魚の日」の取り組みの充実に向けて、県産魚の提供に協賛する飲食店の新規開拓を行うとともに、対面販売セミナー等を開催し小売業者・仲買業者の販売力強化を図る。 ・全県的な産地展開が期待でき、市町村が積極的に振興する園芸品目を「戦略品目ネクスト」として認定し、産地拡大を支援するとともに、県オリジナルいちごの新品種「大分6号」の全県的な産地展開に向けて種苗供給体制の整備を進める。 ・コンテナ苗・エリートツリーの活用など、新たな林業技術の普及を通じて低コスト再生林の定着を図る。